



大津中央・営農課
桐原 竜治

土づくり対策

圃場の土壌状態を知ることが重要です。土壌診断を行い、施肥設計に役立てましょう。

■堆肥の投入

堆肥等の有機物を投入し、地力を高めましょう。ただし、施し過ぎに注意しましょう。一定量を毎年確実に投入することが安定した土づくりにつながります。

■土壌改良資材を投入しましょう！

肥料（チッソ・リン酸・カリ）で補うことのできないケイ酸、石灰、苦土（マグネシウム）、鉄、マンガンなどの養分を補給するため土壌改良材を投入しましょう。土壌改良材をまくことにより、葉や茎を硬くして害虫や倒状に強くなります。また、根の活力を高めるので病気にも強くなります。

粒状スーパーエンリッチ1号
60kg/10a当り

リン酸・けい酸・苦土・ミネラル（マンガン、鉄、銅、亜鉛等）が同時に補給できる総合的で省力的な肥料です。

種子消毒

■塩水選

近年では育苗期間中の5月下旬に最高気温が30℃を超える高温、多照が続いているため、灌漑水や被覆資材の高温による発芽不良や葉焼け、灌水不足による育苗の失敗例が散見されます。胚が大きく貯蔵養分が充実した種粉を選ぶ事で、正常な発芽力を確保するため塩水選を行いましょう。

うるちの比重液濃度は1.13（水20リットルに対し食塩5kg）です。

■種子消毒

- テクリードCフロアブル…… 200倍
- スミチオン乳剤……………1000倍

混合……24時間浸種

《目的》○ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病の防除…テクリードCフロアブル
○心枯線虫の防除……………スミチオン乳剤

《種子消毒法》

テクリードC 200倍 スミチオン 1000倍

薬液を作るときは、あらかじめ少量の水によく溶かしてから所定の濃度にする。

※温湯消毒

乾燥種粉を60℃に10分間浸漬した後、ただちに冷水で冷やす。

消毒順序

種子準備

塩水選

浸種

陰干し

播種

塩水選後は水洗いする

薬液を混ぜながら浸種する

薬液に24時間浸種

消毒後は水洗いしない

薬量早見表

種粉量	水	テクリードC 200倍	スミチオン 1000倍
4kg	8ℓ	40cc	8cc
5kg	10ℓ	50cc	10cc
6kg	12ℓ	60cc	12cc
9kg	18ℓ	90cc	18cc
10kg	20ℓ	100cc	20cc
15kg	30ℓ	150cc	30cc

注意事項

※消毒残液また浸種残液は、河川、沼、養魚池などに流入しないよう、処理する。

■浸種

《目的》…揃った発芽をさせるために必要な水分を吸わせ、すべての粉に発芽活動を始めさせ、粉殻に含まれる発芽阻害物質やその他の有害物質を洗い流すために行います。

《浸種時間》…ヒノヒカリはハト胸状態になるには、水温が15℃で6～7日間、20℃で5日間が必要です。

※浸種の水量は、種粉量の2倍以上あることが望ましく、桶や水樽で行う場合は、酸素不足にならないよう時々かき混ぜ、水は毎日入れ替えて新しくします。

●浸種における留意点

ハト胸状態（粉が膨らみ、芽が1mm程でた状態）が7～8割になるまで実施しましょう。

※10割になるまで待っていると芽が伸びすぎてしまいます。

また、ハト胸状態が不十分だと欠株や田植後の生育不揃いの原因に…

※くまさんの輝きについては、ヒノヒカリに比べ発芽しやすい傾向にあるので、浸種しすぎないようにハト胸状態を必ず目視で確認してください。